

2018年5月31日

岐阜県知事 古田 肇 様

長良川環境改善を求める要請書

よみがえれ長良川実行委員会 共同代表 粕谷 志郎
亀井 浩次

平素から岐阜県政へのご尽力に感謝いたします。

私たちは、長良川を愛し、自然豊かな長良川を取り戻して未来に手渡したいと願う者の集まりです。

河口堰が閉鎖されて23年が過ぎようとしています。堰周辺にはヘドロが厚く堆積し、ヤマトシジミは捕れなくなりました。長良川は海と断ち切られ、サツキマスなどの回遊魚は激減しました。長良川のシンボルである鮎は、人の手が加わらないと絶滅する危惧が持たれています。淡水湖となった下流部ではヨシ原が広範囲に消滅し、そこを生息の場としていた多くの生きものが消え生態系が破壊されています。

愛知県では環境改善を目指して、河口堰の開門調査を提案しています。私たちは流れの障害物であり、水位を上げて堤防を圧迫し続ける河口堰の存在にも危機感を持っています。長良川環境改善と地震・洪水など危機管理の面からも、岐阜県が先頭に立って河口堰の開門にむけた取り組みに着手されることを求めます。

木曾川水系連絡導水路事業が始まって10年になりますが、流域住民の強い反対の声と国の「凍結」判断で、1mの工事もされていません。しかし国と事業者は、事業継続を目指し毎年約2億円もの税金を本事業に投入しています。積極的に事業継続を求める世論は全くありません。県民は、徳山ダムの水を長良川に流すことに強い危機感を持っています。岐阜県は、根拠のない東濃可茂地域の渇水対策論の喧伝を止め、長良川環境を守るために国と事業者には速やかな事業中止を求めるべきです。

長良川の上流部では、内ヶ谷ダム建設がすすめられています。自然豊かな貴重な渓谷が壊されました。県民にどんな利益をもたらすのか理解されないままの事業です。速やかに工事の中止を求めます。

長良川環境改善をめざし、下記の事項を要請いたします。よろしく願いいたします。

記

1. 木曾川水系連絡導水路事業について長良川の環境悪化の危惧を表明し、「事業の中止」を求めること。本導水路事業にかかわる東濃地域の渇水対策論は取り下げること。
2. 長良川河口堰の「開門調査」に向けた取り組みを行うこと。長良川河口堰調査検討委員会と県民調査団の運営は県民に開かれたものにする事。
3. ダムによらない伝統的防災施設施策の充実をはかり、内ヶ谷ダム建設工事を中止すること。本事業の費用・便益を明らかにすること。

以上。

2018.6.1 毎日新聞

長良川河口堰の開門調査を要望
県に市民団体
市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」は31日、導水路計画中止や長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査の実現などを求める要請書を県に提出した。

同実行委員会は、揖斐川上流の徳山ダム（揖斐川町）の水を長良川と木曾川に流す導水路計画などに反対する「長良川市民調査団」など28の市民団体からなる。同会は河口堰周辺に構ったヘッドロを持参。共同代表の粕谷

志郎・岐阜大名誉教授は「徳山ダムからの水は冷たく、生態系を破壊する」として、導水路事業の中止などを要請した。

対応した井上清敏・県土整備部河川課長は、導水路事業は東濃地域の渇水被害に対して効果がある▽河口堰は弾力的なゲートの運用で水質が改善されている▽などと同答。井上課長は「県として、河川・地域を良くしていくためにもリスクに備えなければならぬ」と理解を求めた。

【穂田伸治】



長良川河口堰によるヘッドロや導水路からの冷水の問題を訴える市民団体代表ら一県庁で

2018.6.4 中日新聞

長良川の環境保全3項目を県に要望
市民団体
長良川の環境保全を目指す市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」は五月三十一日、揖斐川の徳山ダムで確保した水を長良川や木曾川に導水して渇水に備える「木曾川導水路計画」の中止など、三項目の要望書を県に提出した。

粕谷志郎共同代表らから

会員約十人が出席し、井上清敬県河川課長に手渡し

井上課長に要請書を手渡す粕谷さんら＝県庁で

た。会員らは環境保全のためとして、木曾川導水路事業と、郡上市の長良川支流で進める内ヶ谷ダム建設工事を中止を求めた。また、長良川河口堰の開鎖が、長良川の環境を悪化させているとして、開門調査などを要請した。

一方、県側は否定的な見解を示した。粕谷さんは「長良川は、県が主体的に守ってほしい」と話した。

（藤矢大輝）

5/3 1 岐阜県要請行動 資料

よみがえれ長良川 2018.5.27Sun
長良川下流域環境観察会 報告

観察 1

快晴。午前10時木曽三川公園P3駐車場に集合し、木曽川（河口から約14km）の水辺に降りて観察。

オオヨシキリの声が騒がしい。干潮時で干潟が広く見渡せる。川底のあちこちから伏流水がわいている様子が見えた。イトメが作る小さな穴も広がっていた。

河口堰がなく汽水域が残るここでは、長良川で姿を消したサンカクイやイトメが見られる。駐車場の芝生ではバーベキューを楽しむグループのテントがたくさん張られていた。



観察 2

長良川・揖斐川背割り堤河口から9.8km地点に移動。午前10時30分より、長良川の岸边、揖斐川のヨシ原に入りそれぞれ5分間「カニ採取」をした。

長良川の岸边（右）はオギに覆われ、柳などの樹木も多い。取れたカニは「アカテガニ」1匹だけ。揖斐川のヨシ原（左）では、ベンケイガニ・クロベンケイガニが81匹（♂33・♀22・未判別26）採取された。



観察 3

PM1:30 河口から4km	揖斐川	長良川
水深(潮位 TP m):m	2.8	3.7
水温: °C	22.4	22.9
状況など 採泥器(20*20*20)、(15*15*15)	砂 あさり大1個 1.7ミリ しじみ 5ミリ~9ミリ 8個	ヘドロ 貝無し
酸化還元電位(ORP):mv	+227	-350

徳山ダム導水路関係 月例水質調査

2018年5月15日(火)

採水場所		時刻	天気	気温 ℃	水温 ℃	濁度	電気伝導度 m s / m
西平(揖斐川)	流心	8:00	晴	17.0	12.5	2.0	5.4
	右岸			18.0	12.5	2.0	5.3
千鳥橋(長良川)	流心	8:00	晴	21.5	15.5	0.7	5.6
	右岸			21.0	17.0	0.5	5.7

5月13日(日) メディコス「みんなの森に大集合」/ブース「よみがえれ長良川」

●「クイズ長良川」

問1. 河口堰ができて何年?

- ① 3年—7人 ② 13年—19人 ③ 23年—204人

問2. 長良川の鮎はどこで産卵するの?

- ① 郡上~関—183人 ② 岐阜~羽島—34人 ③ 伊勢湾—19人

問3. 導水路は徳山ダムの水を長良川のどこへ流す?

- ① 関市—26人 ② 岐阜市—132人 ③ 羽島市—66人

問4. 導水路の建設費はいくら?

- ① 90億円—8人 ② 490億円—63人 ③ 890億円—168人

正解 問1-③ 問2-② 問3-② 問4-③



● アンケート

シール投票の前後にしてもらった、はい/いいえで答える「長良川アンケート」は5才から8才まで135人の参加がありました。家族連れが多く、今までの集会などとは参加者の年齢構成がずいぶん違い、20代、30代が多く、50才以下が73%でした。大雑把な傾向ですが、50才以上の方は④⑤⑥について80%以上知っておられましたが、それ以下の年代は50%以下が多く年代の差があるようです。「以前魚調査をしたことがあり後藤宮子さんもよく知っています」「粕谷先生の教え子です」「漁協の組合員です」「最近転勤で岐阜に来たばかりです」などと自己紹介をしながら答えてくださる方もおられました。

「長良川アンケート」 はい/いいえで答えてください。

- ① 長良川で泳いだことはありますか? はい 69人、いいえ 66人
- ② 長良川で魚をとったことはありますか? はい 44人、いいえ 91人
- ③ 鵜飼の船に乗ったことがありますか? はい 68人、いいえ 67人
- ④ 長良川河口堰を知っていますか? はい 84人、いいえ 51人
- ⑤ 長良川の天然遡上アユが岐阜市の準絶滅危惧種なのを知っていますか? はい 71人、いいえ 64人
- ⑥ 長良川のサツキマスが絶滅の危機に瀕していることを知っていますか? はい 68人、いいえ 67人
- ⑦ 長良川河口堰を開門(調査)するべきだと思いますか? はい 119人、いいえ 7人、わからない 9人

○目的

◆洪水調節

→長良川沿川の浸水被害の軽減

◆流水の正常な機能の維持

(河川に必要な水の確保)

→亀尾島川沿川の既得用水の確保等

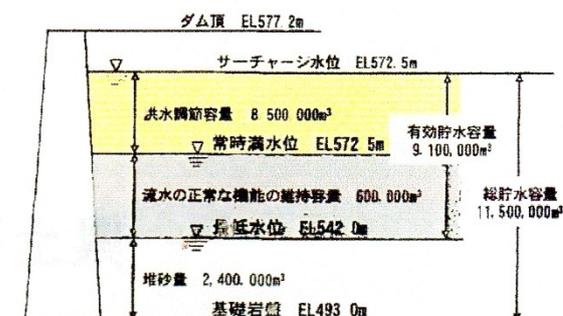
○事業費

約344億円 → 約420億円
(H23ダム検証時) (見直し後)

○経緯

昭和54年4月 調査に着手
昭和58年4月 建設事業着手
平成22年～平成24年 ダム検証

ダム諸元	
型式	重力式コンクリートダム
堤高	84.2m
堤頂長	270.0m
堤体積	約330,000m ³
貯水池諸元	
集水面積	39.9km ²
湛水面積	0.46km ²
総貯水容量	11,500,000m ³



本事業により得られる効果と要する費用の分析

■事業の効果

- ・ ダムができることで軽減できる浸水被害防止便益 効果全体の 79 %
- ・ ダムができることで川の流況を改善できる便益 効果全体の 21 %

■投資的效果率

$$\frac{\text{総便益}}{\text{総費用}} = 1.1 (\text{全体事業費})$$

前回再評価時(H23)
B/C=1.1

・ 治水経済調査マニュアル(案)(H17.4 国土交通省)に基づき算出

長良川河口堰調査検討会 設置要綱

(設置)

第1条 長良川河口堰は、管理に移行したが、県は長良川の防災対策及び自然環境の保全対策等について、湛水した状況で、これらの機能が十分果たされているかなどを検討する必要があることから現地を確認し、その結果、なお検討を要する事項については意見聴取を行い、長良川の安全性を高め、自然環境の保全を図るため、長良川河口堰調査検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

(検討会)

第2条 検討会は、前条の目的を達成するため、次の事項について検討を行う。

- (1) 治水に関する事
- (2) 農地の保全に関する事
- (3) 水質、魚類、鳥類等の環境保全に関する事
- (4) ゲートの操作方法に関する事
- (5) その他検討を要すると認められる事項

(現地確認)

第5条 県は、第1条の目的を達成するため、長良川河口堰県民調査団を編成し、現地確認を実施する。

(検討会の運営等)

第6条 検討会は、必要に応じて県が招集する。

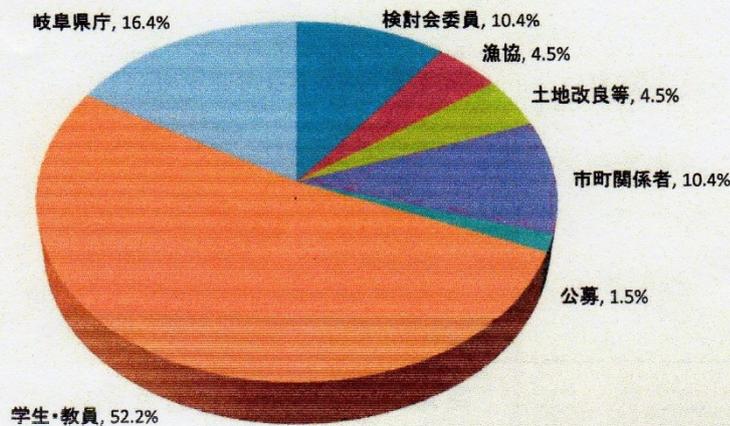
- 2 県は必要に応じ、検討会に国土交通省、水資源機構の出席を求めることができる。
- 3 検討会は、報道機関に公開することができる。

県民調査団の参加者。学生等が突然ゼロから過半数を占める異常な状況となっている。しかも岐阜工専に限られ「研修会」化されている。調査団の趣旨とはずれている。一方で、一般市民には公募は名ばかりで参加が閉ざされている。

1. 参加者構成

所属・団体等	検討会委員	漁協	土地改良等	市町関係者	公募	学生・教員	岐阜県庁
員数(人)	7	3	3	7	1	35	11
構成比	10.4%	4.5%	4.5%	10.4%	1.5%	52.2%	16.4%

※構成比は四捨五入の関係で100.0%にならない場合がある。



平成29年度 (10月27日)

学生等 公募

- H29 35/67—1/67
 H28 45/71—3/71
 H27 0/52—1/52
 H26 0/61—1/61

平成27年度 長良川河口堰県民調査団 参加者構成

所属・団体等	検討会委員	漁協	土地改良等	水防団	消防団等	自治会	県議会議員	市町村議会議員	県市町職員	公募	合計
員数(人)	8	3	3	3	3	2	2	3	24	1	52
構成比	15.4%	5.8%	5.8%	5.8%	5.8%	3.8%	3.8%	5.8%	46.2%	1.9%	100.0%

※構成比は四捨五入の関係で100.0%にならない場合がある。

